

<地方行政を読む・埼玉県全般>

上田知事の周辺に蠢く「疑惑の闇」

(2015年7月22日)

人間はここまで嘘をつき通せるものなのか。

証拠もすべて揃っているにも関わらず、上田知事はそれを認めようとしません。

それでも埼玉県民は、この超デタラメな大嘘つきを知事に祭り上げようというのだろうか。

あの重要場面を再確認する

以下は今年6月定例会で諸井真英議員から提出された質問に対する上田知事の答弁である。(7月2日)

「知事はベトナムの政府高官にどのような形で、エム・テックを紹介したのか……なぜ企業なのかという質問であります、その企業の話は聞きましたのは、25年春に官房長官などの閣僚を歴任された元国会議員と会食をしている時お話を聞きました。

何やら埼玉県では橋梁の技術ではトップレベルの企業があって、ベトナム政府から1000億の高速道路の受注をしたそうではないか、というお話を聞いたので、そういうニュースがあるなら聞こえてくる筈と思って副知事を始め調べていただきました。解らないという話で、しばらくは言っておりましたが、それが後程ご指摘のあった企業であることが解りました。

私は、もしベトナムの高速道路で埼玉県内の企業がそうしたことが可能になれば、これはすごいことだと、むしろ評価をして、もしそういう事例が出来れば、埼玉の建設業者の皆さん達には新しい道が開けるのではないかと、それがどの企業であれ、私はしっかり応援したいという気持ちを持ちました。ただ、これは部局を横断しておりますし、私もこれをずっと見ている訳にはいきませんので、建設畑については岩崎副知事が詳しいので、岩崎副知事に統括的に面倒を見てもらうことにして、その都度岩崎副知事から報告を聞いておりました。

何やら、その1000億の高速道路の話は、どうも最終的には、ベトナム政府にもお金がないこととか、資金繰りの枠組みとか、そういうのがうまく出来ないということで、どうやら、一旦は無くなった話だと思っておりますが、新たに橋梁の関係で案件が1つ出ているという報告までは聞いています。従いまして、もともとこの企業は、東日本大震災の際、ベトナム政府が現地を視察しながら壊れていない軽微なキズで済んだ橋梁などをピックアップして、結果的にこの企業が相当な技術を持っているということで、ベトナム政府がむしろ一本釣りをしたと私は伺っております。

勿論、何らかの時に相当な売り込みもあったのかも知れませんが、そのように聞いております。いずれにしても、このことに関して25年の3月の時点でベトナム政府との工事受注に向けた話し合いをするという内容の覚書を結んでいるそうです。

こちらがこの事を知ったのは、少なくとも25年の5月だとか、そういう時期でございましたので、

紹介するすべもない、いわんや協力関係ベトナム工業省との協定書を結んだり、政府高官等の最高幹部とお目に掛かったのは、それ以降でございますので一切この企業に対して政府並びに、働きかけたことは全くございません。(中略) こちらがこの事を知ったのは、少なくとも25年の5月だとか、そういう時期でございましたので、紹介するすべもない、いわんや協力関係ベトナム工業省との協定書を結んだり、政府高官等の最高幹部とお目に掛かったのは、それ以降でございますので一切この企業に対して政府並びに、働きかけたことは全くございません」 (本紙既報)

「平成25年5月に聞いた」エム・テックのベトナム工事受注

ポイントは、「エム・テックという企業については平成25年(2013年)春に聞いた。埼玉県では橋梁の技術ではトップレベルの企業らしい」と上田知事が答弁した箇所だ。

上田知事は平成24年(2012年)8月にベトナムを訪問し、計画投資大臣と会談を行い、計画投資省高官との間に「経済交流に関する覚書」を締結している。この時点ですでに上田知事に(株)エム・テックを推薦する意欲があったことは、前後の経緯から明白である。

そして年が明けた平成25年(2013年)3月に、ホーチミン高速道路管理局局長との間で、交通省大臣承認のもと、(株)エム・テックは「ホーチミン高速道路建設工事の元請参加」を認められている。上田知事の紹介、推薦がなければベトナムでの大規模事業の情報など(株)エム・テックに届くわけがなく、また(株)エム・テック程度のランクでは、海外大型建設工事への参入などまったく考えられないことなのだ。上田知事は「平成25年の5月だとか、そういう時期」にエム・テックの名を初めて聞いたと答えているが、どう考えても矛盾している。

平成25年(2013年)8月には上田知事率いる「埼玉県アセアン訪問団」がベトナムを訪問している。上田知事に同行したのは松野浩史(株)エム・テック社長、向山(株)エム・テック副社長、東窪(株)エム・テック副社長、内田(株)エム・テック副社長ほか。ここで上田知事とベトナムの計画投資大臣が会談を行い、(株)エム・テック松野社長がその会談に同席しているのだ。この会談によりベトナム政府内に「埼玉デスク」が置かれることになる。

この後、平成25年10月に(株)エム・テックは橋梁と高速道路の受注基本契約を締結している。

上田知事は「平成25年の5月にベトナム政府から1000億の高速道路の受注をした」という情報を「官房長官などの閣僚を歴任された元国会議員」から聞いたと答弁している。

(株)エム・テックが橋梁と高速道路の受注基本契約を締結したのは10月19日以降のことであり、5月の時点で「元国会議員」がそんな話をするなどあり得ないはずだ。もしあり得たとしたら、その背後に巨大な魑魅魍魎が跋扈していることになる。

「元国会議員」とは誰か。神聖議会で上田知事が自身を以て発言した以上、「元国会議員」と会食した、「元国会議員」より耳にしたとする上田発言の真意を聞き質す必要がある。

しかし、上田知事の悪事は、これだけではなかった。

進退が問われる塩川副知事

(株)エム・テックはベトナムの橋梁と高速道路の受注工事の基本契約を締結した。しかし総額 1000 億円にも及ぶこの巨大工事は(株)エム・テック一社ではまったく賄える代物ではない。ベトナムに於いてはエム・テックの下請けとして現地の5社が参画することが決まっているが、日本から相当な実力を持つ企業が協力企業として参加しない限り、エム・テックは工事を進めることができない。

既に(株)エム・テックは「ベトナム社会主義共和国への進出の経過と今後の展開」と題した小冊子を作成し建設業界に配布している。その内容は、エム・テックと上田知事がいかに親密な関係を以て「埼玉県アセアン訪問団」に参加したかが写真入りで紹介され、ベトナム関係閣僚と松野浩史社長との契約締結時の写真等、契約した工事の詳細が 27 頁にわたって記載されている小冊子である。だからといって、この小冊子には(埼)建設業協会に参加している業者にエム・テックがベトナムで受注した工事の参加を求める内容ではない。いわゆる(株)エム・テックの自社業績を誇る内容なのだ。

しかし(株)エム・テックはこれまで工期の延期や手抜き工事など、数々の問題を引き起こし、全国あちこちからの自治体から指名停止を受けている問題業者である。エム・テックのベトナムでの活躍に対しても埼玉県内の業者は、これといった反応は無かった。そうしたなか、平成 26 年(2014 年)2月 18 日に(埼)建設業協会へ県副知事室から FAX が送りつけられたのである。

ここで中学生でも知っている「当たり前」の話をしておく。

知事、副知事を含め埼玉県庁職員にいたるまで、「公僕」は税金で雇われている。

県民の血税でメシを食べている以上、県民のために汗水を流すのが当然であり、公僕が一私企業のために血税を使うことなど許されるものではない。それは常識中の常識である。

埼玉県庁の副知事室から「(埼)建設業協会」宛てにFAXが送られてきたのだ。しかもその文面は(株)エム・テックが作成したもので、ベトナムでの現地工事の下請けを要請したものである。

ちなみに、(株)エム・テックがベトナムで契約した相手はベトナム政府ではなくベトナムの現地投資企業であり、現地企業の労働者を雇用することも契約で決まっている。ということは、現場での労務管理や安全問題等を考えた場合、さまざまな問題が起きることは必然。ベトナムに限らずどんな国の場合でも、海外での受注には想定外の問題が起きることは枚挙に暇がない。そうした海外大規模事業を、日本国内でも問題を多発させている(株)エム・テックがやるというのだ。県内業者が(株)エム・テックの下請けに応じようとするのは、当然の話だろう。

そこでエム・テックは上田知事と語り「県」という「大看板」を利用したのだろう。いずれにせよ、上田知事の命令がなければ塩川副知事は動けない。塩川副知事は上田知事の命令に忠実に従い、埼玉県副知事室から(埼)建設業協会に「県内建設業者のプロジェクト参画スキーム(案)」なる文書がFAXされたのである。

文書の送付者は塩川副知事である。(株)エム・テックのベトナム工事に「県が動いている」ことを明白にして、安心して下請けになるよう要請したものである。

副知事が一私企業のために文書をFAXするなど、言語道断。明々白々の違反文書である。この一事だけで、塩川副知事は進退が問われることになるだろう。しかし塩川副知事に(埼)建設業協会宛ての文書のFAXを命じたのが上田知事であることは、誰の目にも明らかなこと。塩川副知事の進退だけで事が収まるものではない。これは塩川副知事の進退どころか、途轍もない巨大な疑獄事件に発展する可能性がある。

自民党埼玉県連は上田知事追及の手を緩めてはならない

上田知事が自ら定めた条例(多選自粛条例)を破って出馬する。上田知事と激しく対立する自民党埼玉県連は独自候補として元総務官僚の塚田桂祐氏(58歳)を擁立する方針を固めた。しかし自民党本部との折り合いがつかないため、塚田氏は無所属での出馬である。

知事選がどのような結果になるか、目下のところ混沌として状況は不明である。しかし何れにしても、自民党埼玉県連は上田知事と激しく戦わねばならない。

ここで自民党県連が重要視すべきは、7月2日の上田知事答弁にあった「官房長官などの閣僚を歴任された元国会議員と会食をしている時お話を聞きました」という一文である。(株)エム・テックと上田知事を結ぶ黒い噂の出発点は、「元国会議員」にあるのかは別に置き、上田知事自らの口から議会で吐いた言葉だ。

議会とは県民の代表者が襟を正し、埼玉県民のために働く神聖なる聖域だ。その議会においての上田知事の発言である。その証言さえ得られれば、上田知事の虚言を完璧に白日の下に晒すことができる。この「元国会議員」氏を証人として喚問すれば、「元国会議員」が上田知事と(株)エム・テックの仲を斡旋したのか、或いは別の路線で(株)エム・テックと上田知事が、いつ、どのような形で結びついたかがわかるはずだ。この一件は巨悪だ。

地方議会は「地方自治法100条」が定めるところによって、議会に設置された委員会(百条委員会)は証人喚問を行うことが保証されている。

自民党埼玉県連に本気で上田知事と戦争をする気があるならば、百条委員会設置を真剣に考え、仮に上田知事が4選を果たした場合でも、真実を曝け出すべきである。

上田知事と(株)エム・テックの結びつきの深奥を知る「官房長官などの閣僚を歴任された元国会議員…」。その者は誰か。埼玉県に巢食う魍魎魍魎の正体を暴かない限り、埼玉県に未来はない。■